



『QB 必修』+『RB 必修・禁忌』

で完成!!

必修問題対策!!



必修を恐れる 3 つの理由

1 8 割の絶対基準

必修問題を受験生が恐れる理由として最大のものは、難易度にかかわらず「**8割を下回れば不合格になる**」という絶対基準。たとえ、他の項目がパーフェクトでも、この基準をクリアできなければ国試に落ちてしまうんです！

原則的に必修問題は200点満点。8割の絶対基準を突破するためには40点しか落とせません。特に**必修の臨床問題は1問3点と配点が重い**ため、受験生にとってプレッシャーとなります。

2 独特の出題傾向

必修問題で問われやすいのは、疾患の各論的知識よりも「**まず行うべき**」「**まず初めに**」「**現時点で**」「**次に必要な**」検査や処置。例えば112回国試で正答率が低かったのは、抗凝固療法中の脳卒中患者に対する適切な気道確保について問う問題でした（112E42, 正答率49.2%）。3点を落とさないためにも、**何を問われている問題なのかということをしっかりと読み取る**ように気をつけなくてはなりません。

3 普段あまり勉強しないテーマの出題

必修問題では「医療面接」「保健医療論」「医療英語」など普段あまり勉強しないテーマからも出題されます。また「診察・手技」「プライマリケア」「カルテの書き方」など、**現場で身につけるテーマからも幅広く出題される**ため、実習から遠ざかっている受験生にとっては、非常に対策しにくいといえます。必修に出題されるテーマをおさえておかないと、「**知らなくて解けない**」、「**忘れていて解けない**」ということが大いにありうるのです。

必修に特化した対策期間を設けよ!

これらの特徴をもつ必修問題は、以下の2点が対策ポイントになります。

①必修の出題範囲を把握する

受験生の中には「各論の勉強さえすれば充分。特別な対策は不要!」と考えてしまう人もいるかも知れません。しかしそれだけでは、必修の出題範囲である「保健医療論」や「診療・手技」まで深く理解することはできません。まず、**出題範囲を把握することは、あらゆる試験対策の基本**です。『QB必修』や『RB必修・禁忌』巻頭の必修ガイドライン対照頁表には一度目を通しておきましょう。

②必修脳を鍛える

「マニアックな疾患」や「細かい知識」を問われる一般・臨床問題と必修問題を同時に解いていると、普通に考えれば正解できる問題をどうしても「深読み」してしまったり、「臨床的常識」と「臨床的例外」を混同してしまったりしがちです。

「**必修に特化した書籍**」を使い、「**必修に特化した対策期間を設ける**」ことが必修対策のセオリー。例えば年内に1週間+年明けに1週間などと期間を決めて、「**必修ガイドラインに掲載されている項目をもれなくカバーする**」こと、「**必修問題だけを解きまくって、必修脳を鍛える**」ことが必修問題を制するカギとなるのです。

必修対策の2本柱

必修対策に欠かせないのがこの2冊! 各書籍の詳しい内容はWebをご参照ください。



『QB 必修』で必修脳を鍛える!

- ・必修対策で絶対に欠かせないのが「必修脳」作り!
- ・最新112回国試の必修問題を全問収録!
- ・オリジナル予想問題、過去問だけでは網羅できないガイドライン項目ももれなくカバー!

詳しくは

QB 必修

検索



『RB 必修・禁忌』で知識を総整理!

- ・必修ガイドライン全項目がこの一冊にまとまっているからいち早く**必修の全体像をつかむ**ことができる!
- ・赤シートで重要語句が隠せるから、試験直前までインプットとアウトプットが効率よくできる!

詳しくは

RB必修・禁忌

検索

合格した先輩方の必修対策体験記を
読んでみよう!

